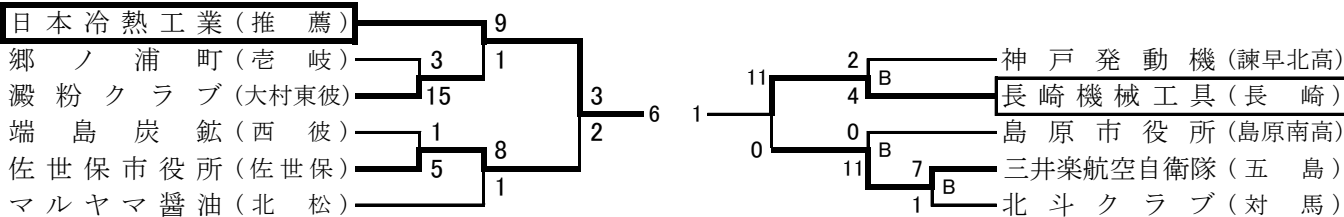


機械工具の雪辱ならず日本冷熱工業が準硬式大会初の連覇

第12回県下郡市対抗準硬式野球選手権大会

会期：昭和37年10月27日(土)～28日(日)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場



第12回大会の入場式は県警音楽隊の吹奏行進で始まりファンファーレが澄み切った秋空のもと浦上原頭が高く響き渡るうち、故・田中長崎市軟式野球連盟会長の遺影を抱いた黒川審判長を先頭に審判団が入場。続いて国旗、大会旗、そして前年度優勝の日本冷熱工業をはじめ、郷ノ浦、澱粉クラブ、端島炭鉱、佐世保市役所、マルヤマ醤油、神戸発動機、島原市役所、三井楽航空自衛隊、北斗クラブの各地区代表が優勝旗を持って入場し開会式が始まった。



(昭和37年10月28日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

第1日目は大橋球場で二回戦各2試合、三菱球場で一回戦1試合と二回戦2試合が行なわれた。大橋球場の一回戦第1試合大村(澱粉ク)ー壱岐(郷ノ浦)は大村の打棒大いにふるい、14安打を壱岐の柳沢、吉田両投手に浴びせて毎回得点を重ね15ー3の六回コールドで快勝。第2試合の佐世保市役所ー西彼(端島炭鉱)は佐世保の奥田、西彼の尾崎の投げ合いで緊迫したゲームとなったが、八回佐世保が尾崎の乱れをついて一挙4点をあげて西彼を破った。続く二回戦の日本冷熱工業(推薦)ー大村(澱粉ク)は、壱岐を一蹴した大村も日冷工打線に全員安打(12本)の洗礼をうけて9ー1の七回コールドに屈

し、佐世保(市役所)ー北松(平戸マルヤマ醤油)は好守に一日の長がある佐世保が8ー1で勝ち星をあげた。また三菱球場での第1試合、一回戦の五島(三井楽航空自衛隊)ー対馬(北斗クラブ)は五島が前半で勝負を決めて7ー1で快勝。続く第2試合から二回戦に入り、諫早(神戸発動機)ー長崎(機械工具)は諫早が初回の本塁打などで優位にたったが、長崎は四回裏に小西の3点本塁打で逆転、七回にダメ押しの1点を挙げ4ー2で勝ち。第三試合の五島ー島原市役所は、五島が3ホームーを含む11安打の猛攻で大量11点をあげて5回コールドゲームで大勝した。

澱粉クラブ14安打で15得点

【一回戦】大橋：第1試合 振球犠盗併残失 1時間28分
 澱粉クラブ 212 235 15 1 2 0 7 0 6 6 (6回コールド)
 郷ノ浦町 002 100 3 1 1 0 0 0 6 5

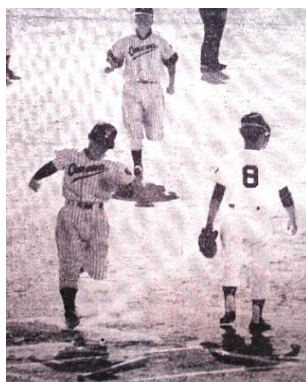
【本】中野(吉田) 【三】荒木、野中 【二】野中、中野

【評】郷ノ浦の柳沢、吉田両投手ともコントロールはよかったが、スピードが無いのでカーブも効果なく澱粉クラブはフリーバッティングのように思う存分打ちまくり、中野の大会第1号を含む14安打11打点の猛攻で15点を奪い、六回コールドに降した。

郷ノ浦は昨年も地区代表に選ばれながら定期船の欠航で県大会に参加できず「今年は2年分の力を発揮せねば」と望んだ大会であったが、三回二死後遊ゴロ失に出た平田を足場に浦上の右前打で一挙三進。さらに赤木尚の右前打で平田が生還。この打球を右翼手がもたついている間に浦上も還った。

また四回にも中前安打に出た柴山を石原が左前打。これを後逸する間に1点を追加して反撃の気配を示しかけたが投手陣の弱さから得点差は開く一方だった。

【澱粉ク】	打安点	【郷ノ浦】	打安点
② 荒木	5 4 1	⑥ 平田	2 0 0
⑦ ④ 田中	4 2 2	⑧ 浦上	3 1 0
⑥ 草野光	3 1 0	⑤ 赤木尚	3 1 1
③ ⑤ ① 野中	4 3 2	⑨ 松山	3 0 0
① ③ 中野	4 2 4	② 赤木勝	3 0 0
⑤ ① ⑤ 大島	4 0 0	③ 柴山	2 1 0
⑧ 森	4 1 0	⑦ 富谷	3 0 0
④ ⑦ ④ 川上	4 0 0	④ 石原	2 1 0
⑨ ⑨ 吉岡	4 1 2	④ 吉次	0 0 0
	36 14 11	① 柳沢	1 0 0
		H 藤田	1 1 0
		1 吉田	1 0 0
			24 5 1



澱粉ク、先取点あげる

一回表中野の左越二塁打で二走の草野に続き一塁走者野中も生還。

端島鉦、敢闘及ばず

尾崎が8回にくずれる

【一回戦】大橋：第2試合		振球犠盗併残失										1時間40分
端島炭鉦	000 100 000	1	4	2	0	0	0	6	1	【二】長崎		
佐世保市役所	010 000 04X	5	2	2	0	1	0	2	2	松島		

【評】端島の尾崎、佐世保の奥田両投手とも縦横からの変化球のコンビネーション良く相ゆずらぬ投手戦を展開していたので1-1のまま延長戦にもつれ込むかと思われたが、八回尾崎の力が尽きてしまった。

佐世保は二回二死後大石の中前打と遊ゴロ失、四球で満塁にした後堀脇が2-0後に外角球を三遊間に引っ張って先取点をあげた。端島も四回、左中間二塁打の長崎と四球の尾崎を一塁において久保が併殺になると思われるような遊ゴロを放ったが、トスされた球を二塁手が後逸して1点を返しタイに持ち込んだ。

その後は両軍ともよく打ちながらも好守にはばまれ得点のチャンスをつかむことができなかったが、八回の佐世保は急に疲れの見た尾崎を先頭の奥田、続く松永が連続で左右に痛打。堀脇も三塁線へのうまいバント(野選)で満塁と攻めつけ、松島が2-1と追い込まれながらも左に快打。これを野手が後逸(記録は二塁打)し走者を一掃。田淵も左前にダメ押ししてこの回5本のつるべ打ちで4点を挙げた。

【端島】打安点	【佐世保】打安点
⑦毛利 4 0 0	⑥松島 4 1 3
③9森 4 1 0	⑧田淵 4 1 1
⑥5長崎 4 1 0	②佐々木 4 1 0
①尾崎 3 1 0	⑤柴山 3 0 0
⑧船津 4 0 0	⑨井之口 3 0 0
④久保 4 1 0	③大石 3 1 0
⑤高比良 1 0 0	①奥田 3 1 0
3渡辺 3 0 0	④松永 2 1 0
②大野 3 0 0	⑦堀脇 3 1 1
⑨篠崎 1 0 0	
6樫谷 2 0 0	
33 4 0	29 7 5

日冷工、澱粉ク降ろす

【二回戦】大橋：第3試合		振球犠盗併残失										1時間11分
澱粉クラブ	000 010 0	1	5	2	1	0	0	1	1	1時間11分		
日本冷熱工業	010 017 X	9	1	2	2	3	1	5	0	(7回コールド)		

【三】伊東、川口 【二】伊東、浜辺、川内2、大塚

【澱粉ク】打安点

②荒木 3 0 0
⑦田中 3 0 0
③野中 3 0 0
①中野 2 0 0
⑤大島 2 0 0
⑧森 1 0 0
④川上 2 1 1
⑨吉岡 2 0 0
⑥草野 2 0 0
20 1 1

【評】日冷工の打力の勝利だった。特に六回の攻撃はものすごく打者11人を送って7点をもぎ取り澱粉クラブをコールド・ゲームに破った。

澱粉クの中野は軟投で五回までどうにか日冷工の鋭鋒をかわしてきたが、この回川口、伊東に長短打を浴びて降板。かわった野中も球威が無く日冷工打線にフリーバッティングのように打ちまくられた。

しかしそれまでの日冷工は二回伊東、川内の二塁打で1点先攻したが、四回三塁打の伊東がスクイズ失敗から挟殺されたあと、川内の二塁打がとび出すなどチグハグな攻撃ぶり。

五回には大塚投手が川上に適時打され、一度はタイに追いつかれる有様で連続優勝を狙うチームとしては不本意な試合。

澱粉クラブは31年大会に初出場で初優勝以来7大会連続出場。ほかの大会の予選では勝てなくても、この大会だけは不思議と地区代表になる。今大会は頼みの投手陣も悪かったが打線も川上の安打だけで、大塚投手の外角カーブにひねられ精彩がなかった。

【日冷工】打安点

⑦梅井 4 1 0
⑧毎熊 3 1 1
②酒田 3 1 2
⑨川口 3 1 1
9梅野 0 0 0
⑥伊東 4 3 1
③川内 3 2 0
④浜辺 2 1 2
①大塚 3 1 1
1安山 0 0 0
⑤井上 3 1 1
28 12 9

マルヤマ醤油 後半打たれる

【二回戦】大橋：第4試合		振球犠盗併残失										2時間8分
佐世保市役所	000 011 222	8	4	0	2	3	0	7	0	【三】松島、佐々木、柴田		
マルヤマ醤油	000 001 000	1	3	1	0	1	0	9	2	【二】石丸、正木、佐々木		

【評】佐世保市役所は後半、大いに打棒がふるい、四回以降毎回得点を重ねて8点を奪い大勝した。マルヤマ醤油も9安打を放ちながらまずい攻め方で1点を入れたにとどまった。この1点は六回無死で江田が三遊間を破る安打に出たあと橋本が右前打。これを右翼手が後逸する間にあげたもので、そのほかは決定打不足から追加することができなかった。

マルヤマ醤油は今年の6月に結成し、北松代表として全日本選抜と全九州軟式の県予選に出場し、黒潮クラブに6-7、九電長崎に2-3と何れも惜敗したが、選手権予選でも炭鉦チームを差し置いての初出場を果たした。

【佐世保】打安点	【マルヤマ】打安点
⑥松島 4 3 0	⑥江田 5 1 0
⑧田淵 4 1 1	⑨柳本 4 2 1
②佐々木 5 2 1	⑦岸本 4 0 0
⑤柴山 4 2 1	⑤石丸 4 2 0
①井之口 4 1 1	⑧村中 4 0 0
③4大石 4 0 0	③松浦 4 0 0
④松永 3 2 1	④上村 3 1 0
9奥田 1 1 2	①正木 2 1 0
⑨草葉 1 0 0	1峰 0 0 0
93高橋 2 0 0	H春野 1 0 0
⑦堀脇 4 1 1	1飯塚 1 0 0
36 13 8	②坂田 4 2 0
	36 9 1

北松地区からの常連組、日鉄北松御橋炭鉦と住友潜龍炭鉦は前年の第11回大会に日鉄御橋が出場したのが最後となった。11回の大会のうち御橋が第1回と第2回の連続優勝を皮切りに6回出場して、11勝4敗の準優勝が第10回大会。住友潜龍は第3回大会の準優勝がデビューで、翌年から2年連続優勝し第7回大会まで5年連続出場は10勝3敗の戦績だった。御橋炭鉦(吉井町)が昭和40年8月に閉山し、潜龍炭鉦(江迎町)は昭和42年8月に完全閉山となった。

【一回戦】三菱：第1試合 振球犠盗併残失 1時間33分

三井楽航空自衛隊	201 300 001	7	5	5	0	2	0	4	1
北斗クラブ	000 000 010	1	5	2	1	1	1	3	4

【本】布袋(宮原)、貞方(宮原)
古藤(福元)

【北斗】打安点

⑨1 蕃 建	3 0 0
④ 島 居 久	3 0 0
⑦ 梅 野 和	1 0 0
8 島 居 邦	1 1 0
H 梅 野 義	1 0 0
②7 梅 野 敏	4 0 0
① 宮 原	2 0 0
9 梅 野 正	1 0 0
⑤ 梅 野 幾	3 0 0
⑧7 一 宮	2 0 0
2 古 藤	1 1 1
③ 森 口	3 0 0
⑥ 立 花	3 0 0
28 2 1	

【三井楽】打安点

⑧7 貞 方	4 1 4
② 与 田	4 0 0
④ 佐 々 木	3 0 0
⑤ 和 田	4 1 0
⑨7 布 袋	3 2 3
⑥ 馬 場 崎	4 0 0
③ 道 添	4 0 0
⑦1 小 松 崎	3 1 0
①9 福 元	4 0 0
33 5 7	

【評】三井楽空自は対馬宮原の立ち上がりの無制球に乗じて3四球で一死満塁のチャンスをつかみ、布袋が中前に適時打して2点を先行。三回には布袋(ほてい)の左翼左を破るランニングホームー。四回にも敵失などに恵まれて無死一二塁の好機に、貞方が右翼オーバーの3点本塁打を放つなど前半で勝負を決めた。これに対し北斗クラブは一回のチャンスを失ってからは福元の左腕独特のひざ元に食い込む速球とカーブに手こずって反撃機をつかめず七回にやっと初安打を記録するという有様。八回に古藤のランニングホームーで1点を返したにとどまった。結果論ではあるが北斗クラブは五回途中からリリーフした蕃建(しげたて)が以後を無安打に押える好投を見せていただけに投手起用をあやまった感じだった。対馬からの北斗クラブは31年と32年に出場して5年ぶりの出場だが第2回と第9回大会は定期船の欠航により棄権の憂き目にあっている。

小西、逆転の3ラン

神戸発動機 吉田の先制本塁打空し

【二回戦】三菱：第3試合 振球犠盗併残失

神戸発動機	100 100 000	2	10	3	1	1	0	7	4
長崎機械工具	000 300 10X	4	4	6	1	2	1	9	3

1時間57分

【本】吉田(清田)、小西(中島) 【二】原

【発動機】打安点

⑤ 高 内	5 0 0
⑥ 吉 田	4 1 1
② 中 村	3 1 0
⑧ 大 山	3 1 0
⑦ 山 田	4 0 0
④ 東	4 1 1
③ 不 動 寺	3 1 0
① 中 島	3 0 0
H 宮 松	0 0 0
R 栗 崎	0 0 0
⑨ 岩 永	4 0 0
33 5 2	

【評】初回吉田の右中間を抜くランニングホームーで先取点をあげ、四回には二死走者三塁の好機に東が右前タイムリーして2点のリードを奪い優位に立った神戸発動機だったが、長崎はその裏小西の左翼左の3点ランニングホームーで逆転した。すなわち一死後原の左前二塁打をきっかけに桑田が四球、成宮の三ゴロで二封されたが、小西がうまく左翼に流し打ちし、これが左翼線でイレギュラーバウンドする幸運な本塁打となったもの。神戸発動機の中島はこの回の原と小西の共に左バッターに好球を呈して打たれたわけで、横手投げという左バッターに不利な投法のせい、それまでもこの二人にはカウントを悪くするなど投げにくそうだったがもう少しじっくり考えて投げてよかった。逆転に成功した長崎は七回、二つの敵失などを足がかりに二死満塁と攻めたて、比地が四球を選んで押し出してダメを押しした。

【長崎】打安点

⑥ 寺 尾	4 0 0
④ 平 山	3 0 0
⑦ 平	3 1 0
⑨ 原	4 1 0
⑤ 桑 田	3 0 0
⑧ 成 宮	2 0 0
8 比 地	1 1 1
③ 小 西	2 1 3
② 峰	4 0 0
① 清 田	4 0 0
30 4 4	

三井楽空自、島原に完勝 3ホームー浴びせる

【二回戦】三菱：第3試合 振球犠盗併残失 1時間5分
(5回コールド)

島原市役所	000 00	0	3	4	1	2	0	7	3
三井楽航空自衛隊	200 09	11	2	4	1	3	0	5	0

【本】佐々木(高木)、布袋(高木)、福元(高木) 【二】山本

【島原】打安点

⑧ 山 本	3 1 0
③ 島 井	3 1 0
⑤ 森 永	2 0 0
⑦9 森 垣	2 0 0
⑨1 高 木	1 1 0
⑥ 丸 山	1 0 0
④ 江 川	1 0 0
①7 高 本	2 0 0
② 山 北	2 0 0
17 3 0	

【評】三井楽空自が3本のランニング本塁打を含む11安打を集中して島原を一方的に破った。一回裏、敵失と犠飛で簡単に2点を先取した三井楽は、五回に佐々木の2点ホームーを皮切りに島原の高本をつるべ打ち。一死後に布袋が左に、福元も右に3点本塁打するなどでもまたたく間に6点を奪い、さらに代わった高木にも2安打と四球で満塁とし、投手の三塁牽制悪送球で塁上の走者が一掃しコールドゲームとなった。連投の福元は前試合と逆にボール数が多くスローボールを打たせるという苦しいピッチングだったが、島原の雑な攻撃に助けられた形だった。第4回大会以来8年ぶり二回目出場の島原市役所は、今回も勝利することが出来ずに、3安打で敗退した。

【五島】打安点

⑨ 貞 方	3 1 0
② 与 田	4 4 0
⑥ 佐 々 木	3 1 2
⑤ 和 田	3 0 0
⑧ 布 袋	2 1 2
④ 馬 場 崎	2 0 0
③ 道 添	3 2 0
⑦ 小 松 崎	2 1 0
① 福 元	3 1 3
25 11 7	

「本塁打乱造」の三菱球場

○…この日の第二会場、三菱球場は外野フェンスが無い
ため外野をオーバーしたボールは奥深くまで転がってすぐ
にランニングホームラン。この日三試合だけで8ホーム
ランが乱れ飛ぶというホームラン乱造球場ぶり。関係者は準備
していたホームラン賞が足りなくなるとヒヤヒヤ。

ホームランに神経質になったせい第2試合以降は外野
が深く守って普通の守備位置で取れる飛球もヒットになる
というケースがままあった。ところが第3試合の五島馬場
崎の大飛球は、本塁打性だったが深い守備に凡飛となった。

初陣の航自隊 二試合ともいただく

○…初出場の三井楽航空自衛隊は、この日一回戦を試
合するという不利なスケジュールだったが、みごと北斗ク
ラブと島原市役所の2チームを連破し準決勝戦に進んだ。
自衛隊らしくそのきびきびしたプレーぶりが好感を持たれ
た。好守交代のたびにベンチから「かけ足、のかけ声が飛
び、サッとベンチに引き上げ、また守備につくといった具
合。この日の2試合では好守好打と元気なプレーを見せ関
係者は「よほど練習しとっとばい」と話していたが、同チ
ームの浅井監督は「とんでもない、24時間勤務なのでみんな
一緒に練習もできない。4、5人そろえてやるのがやっとで
す。まあ元気なところが取り得ですよ」と言っていた。

大会最終日は準決勝、決勝の3試合が行われた。準
決勝第1試合目の日冷工-佐世保市役所は2点の先行
を許した日冷工が小刻みに得点をかさねて、3-2で
逆転勝ち。第2試合の長崎機械工具-三井楽航空自衛
隊は投打に一日の長がある機械工具が11-0の七回コ

ールドゲームで快勝し決勝戦に駒を進めた。かくて
決勝戦は昨年同様、日冷工-機械工具の対戦となっ
たが日冷工の打線が後半炸裂し6-1で機械工具を
破って二年連続優勝をとげた。

(昭和37年10月29日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

奥田の力投も空し

佐世保市役所 目立つ野手の拙守

【準決勝】 振球犠盗併残失

佐世保市役所	200 000 000	2	5	1	2	0	0	4	2
日本冷熱工業	100 110 00X	3	1	1	1	0	1	6	0

【三】酒田 【二】梅野、柴山 1時間41分

【佐世保】 打安 点

⑥ 松島	4	1	0
⑦ 堀脇	4	1	0
② 佐々木	3	0	0
⑤ 柴山	4	1	0
① 奥田	3	0	0
③ 大石	4	2	2
⑨ 井之口	2	0	0
④ 松永	3	0	0
⑧ 田淵	3	0	0
			30 5 2

【評】日冷工の安山は立ち上がりが悪く先頭の松島にバントヒットされ
堀脇の中前打と自らの拙い守備でたちまち無死満塁のピンチを招いた。
ここで柴山、奥田の中軸を凡飛に打ち取ってホッとしたが、大石に右前
に打たれ2点の先行を許した。しかしその裏の日冷工は二死後から酒田
が中堅頭上を大きく破り梅野のタイムリーで1点返し、四回には安打の
川内が浜辺の二ゴロで二進。井上の三ゴロを体勢の崩れた柴山が一塁に
低投(記録はワンヒット・ワンエラー)する間に川内が還ってタイとした。
こうなると追う者の強み。五回代打の野が三塁内野安打に生きると
手堅くバントで送り梅野の一塁右を破る二塁打で勝ち越し点をあげた。
日冷工の安山は立ち上がり堅くなったのか球が走らなかったが、二回以
降は立ち直り、特にリードしてからは切れのよいカーブとノビのよい速
球で六、七回に二塁に走者を進めただけの危なげないピッチングだった。

佐世保地区予選の決勝で、国体に出場するなどこのところ絶好調の
西肥バスを2-1で破って初の出場権を得た佐世保市役所は、エースの
奥田が一球ごとにペースを変え、コースも変えるうまい投法を見せたが
野手の拙守に足を引っ張られたかたちだった。

【日冷】 打安 点

⑦ 梅井	2	0	0
H7 的野	2	1	0
⑧ 毎熊	3	0	0
② 酒田	4	1	0
⑨ 梅野	4	2	2
⑥ 伊東	4	1	0
③ 川内	2	1	0
3 川口	2	0	0
④ 浜辺	3	0	0
⑤ 井上	3	1	1
① 安山	2	0	0
			31 7 3

【準決勝】 (7回コールド) 振球犠盗併残失

長崎機械工具	130 202 3	11	4	4	2	0	0	6	0
三井楽航空自衛隊	000 000 0	0	7	0	1	0	1	6	2

【三】成宮、寺尾2、福元、平山 1時間30分

【評】長崎は連投で疲れの見える福元に毎回のように痛打を見舞い
七回まで14安打11点をあげコールドに降した。三井楽空自の福元はス
ピードがないため巧打者揃いの長崎にはカーブ、ドロップとも通用せず
に好餌になった。

一方の伊藤はスピードも充分あり落ちる球を武器にビシビシと投げ込
み散發の7安打で完封した。三井楽のチャンスは四回、佐々木、和田の
連打で無死一二塁になった時だったが後続打者に一発がでなかった。
また五回には福元が中越の大三塁打を打ち本塁を欲ばって憤死した時の
二度だけで良い所はなかったが不振の三井楽では佐々木が3打数3安打
を放ち一人で気を吐いていたのが光っていた。

【五島】 打安 点

⑨ 貞方	3	0	0
② 与田	3	0	0
④ 佐々木	3	3	0
⑤ 和田	3	1	0
⑧ 布袋	3	1	0
⑥ 馬場崎	2	1	0
③ 道添	2	0	0
H 柿山	1	0	0
⑦ 小松崎	2	0	0
H 中村	1	0	0
① 福元	3	1	0
			26 7 0

【長崎】 打安 点

⑥ 寺尾	5	4	3
④ 平山	2	1	1
⑦ 平	3	2	3
⑤ 桑田	2	0	0
H 橋本	1	0	0
6 藤枝	0	0	0
⑨ 原	4	1	0
⑧ 成宮	2	1	0
8 比地	2	1	0
③ 小西	1	1	0
3 森	2	0	0
② 峰	2	0	0
2 平尾	2	1	1
① 伊藤	4	2	1

日本冷熱工業が二連覇 日冷工みごとな継投

長崎機械工具 先取点も及ばず

【決勝戦】 2時間5分 振球犠盗併残失

日本冷熱工業	000 001 122	6	4	2	0	3	1	6	2
長崎機械工具	000 100 000	1	3	2	1	0	1	9	1

【三】梅野、安山

【二】酒田、伊東

【評】長崎勢同士、しかも昨年の決勝戦で相まみえた両雄の二度目の対決となった。二連覇を狙う日冷工、昨年の雪辱を期す機械工具は前半がちり四つに組んだまま相ゆずらず緊迫したゲームだった。

日冷工が一回は梅井、酒田が安打を放ち、二回には先頭の伊東が二塁打して清田をおびやかしながら一回は毎熊がバントを失敗してダブられ、二回は後続が簡単に倒れて得点に結び付けなかったのに対して、機械工具は四回、四球と比地の三塁右を抜く安打で掴んだ二死一三塁に清田が中堅右に痛烈に叩いて先取点をあげた。

しかし立ち上がり危なかった清田が重い速球とドロップで三回から五回まで四球の走者を一人出しただけで日冷打線をピッチャリ抑え、あるいはこの先取点がものをいうのではないかと思われた。

ところが清田はドロップの投げすぎから疲れ、後半球威がやや鈍ってきた。これを日冷工打線が見逃すはずは無く六回一死後安打の毎熊が二盗に成功、酒田が2-3からドロップをつまり気味ながら左中間に叩いて毎熊を迎え入れタイとした。続く伊東の左翼頭上を襲う一打は原の好捕に阻まれて追加点をあげられなかったが、七回には二死三塁に浜辺を置いて安山の当りそこねの三ゴロが内野安打になる幸運に恵まれて勝ち越し点をあげた。

こうなると日冷工のペース。八回に毎熊の遊失を足がかりに梅野の右前イレギュラー三塁打と川口の中前打で2点を奪って清田をKO。代わった伊藤にも九回2点を加えて機械工具の息の根を止めた。

日冷工は昨年機械工具戦で好投した大塚を先発させたが、四回1点を失い六回に先頭の西に打たれるや、すかさず安山をリリーフにおくりピンチを未然に防いだ判断の良さが勝因の一つともいえる。



九回表三塁打の安山が伊藤の投手暴投で労せずに生還(右は伊藤、打者は野)

【日冷】打安点

⑦	梅井	4	1	0
7	浜崎	1	0	0
⑧	毎熊	3	1	0
8	的野	1	0	0
②	酒田	5	2	1
⑨	梅野	4	1	1
⑥③	伊東	4	1	0
③	川口	1	0	0
3	川内	3	2	1
6	宮原	0	0	0
④	浜辺	4	0	0
⑤	井上	3	1	0
①	大塚	2	0	0
1	安山	2	2	2
37 11 5				

【長崎】打安点

⑥	寺尾	4	0	0
④	平山	3	0	0
⑦	平	4	1	0
⑨	原	4	1	0
⑤	桑田	3	0	0
③	小西	4	2	0
⑧	比地	4	1	0
②	峰	3	0	0
H	藤枝	1	1	0
①	清田	3	1	1
1	伊藤	0	0	0
H	成宮	1	0	0
34 7 1				

個人賞受賞者

- ◇最優秀選手賞＝梅野慶志(日冷工)
- ◇首位打者＝川内克彦(日冷工)
8打数5安打(, 625)
- ◇敢闘賞＝安山信彦(日冷工)
酒田正二(日冷工)
清田豊彦(機械工具)
- ◇美技賞＝原広彌(機械工具)
- ◇勝利監督賞＝前野士朗

練習が実を結ぶ

前野日冷工監督の話

1点を先取されたのがかえってよかった。清田は五回ごろ叩くつもりだったがちょっと遅れた。しかし後半はこちらのペースとなり楽な試合だった。このところ試合から遠ざかっていたが試合前の練習が実を結び選手たちが持っている力をフルに出してくれたので二連覇を飾ることができた。二年間県下軟式野球界の王座につくことができこんなにうれしいことはない。



優勝旗を受ける梅井主将

昭和37年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第17回全日本軟式野球大会【51チーム】

(S37. 8. 3～:大阪府)

西肥自動車【一】 1-2 新潟市水道局(新潟)

第17回岡山国体【25チーム】 10. 22～

西肥自動車【一】 3-5 日立製作所(茨城)

第13回西日本準硬式【26チーム】 5. 25～:徳島県

日本冷熱工業【一】 2-12 井関農機(愛媛)=優勝

第6回高松宮賜杯全日本大会 9. 2～:宮崎県

1部(10チーム)は九州から福岡(優勝)と宮崎(BEST4)が出場
2部(10チーム)は九州から鹿児島(優勝)と宮崎(準優勝)が出場